



みんなで考えよう

平和と人権

「人権文化をすすめる市民運動」

第76回 ふれ愛シネサロン

百の診療所より一本の用水路を

20年以上に渡り撮影した映像素材から
医師中村哲の生き様を追うドキュメンタリーの完全版！

劇場版

荒野に希望の灯をともし

撮影・監督：谷津賢二／構成・制作：上田未生／企画：ペシャワール会／朗読：石橋蓮司／語り：中里雅子

©日本電波ニュース社

令和6年8月3日(土) <3回上映・30分前開場> 日本語字幕あり
①10:00～11:35／②12:45～14:20／③15:30～17:05

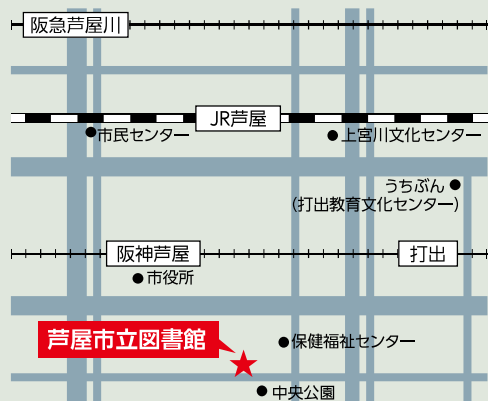
会場

芦屋市立図書館 2階集会室 芦屋市伊勢町12番5号

※駐車場は台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
※阪急バスで緑町または中央公園前下車、徒歩2分(臨港線北側)
●手指消毒・マスクの着用にご協力をお願いします。

要申込

託児あり



入場料 無料 定員 各回70人〔先着〕

申込方法 7月1日(月)午前9時より受付開始

託児無料

●専用の「申込みフォーム」より申し込みください。
●託児申込み:定員各回3人(6か月～未就学児)
※電話でのお申し込みは、人権・男女共生課まで

問合せ

芦屋市 人権・男女共生課
TEL.0797-38-2055

主催

芦屋市／芦屋市教育委員会

申込フォーム



申込締切
7月26日(金)まで

武力で平和は守れない

これは「生きるための」戦いだ。

アフغانستانとパキスタンで、病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続けた男、
医師・中村哲。戦火の中で病を治し、井戸を掘り、用水路を建設してきた。

なぜ医者が見つけ続けた中村の生き様の中にあり、

その答えは、命を見つめ続けた中村の生き様の中にあり、
私たちはこの映画で中村が生きた、その軌跡をたどることになる。



「彼らは殺すために空を飛び、

我々は生きるために地面を掘る。」—— 中村哲

中村の誠実な人柄が信頼され、医療支援が順調に進んでいた2000年。思いもよらず自体に直面し、中村の運命は大きく変わる。

それが“大干ばつ”だ。渇きと飢えで人々は命を落とし、農業は壊滅、医療で人々を支えるのは限界だった。

その時、中村は誰も想像しなかった決断をする。用水路の建設だ。

大河クナールから水を引き、乾いた大地を甦らせるというのだ。しかし、医師にそんな大工事などできるのか？

戦火の中で、無謀とも言われた挑戦が始まった。

「ここには、天の恵みの実感、誰もが共有できる希望、

そして飾りのないむきだしの生死がある。」—— 中村哲

専門家がいないまま始まった前代未聞の大工事は、苦難の連続だった。数々の技術トラブル、アフガン空爆、息子の死…

中村はそれらの困難を一つ一つ乗り越え、7年の歳月をかけ用水路は完成。

用水路が運ぶ水で、荒野は広大な緑の大地へと変貌し、いま65万人の命が支えられている。そして一。

©日本電波ニュース社

